



やよいだより



〒245-0006 横浜市泉区西が岡 1-28-1 TEL 045-813-0221 (代) FAX 045-813-7448 (地域医療連携室)
URL <http://shinzen.jp>



新年明けましておめでとうございます。

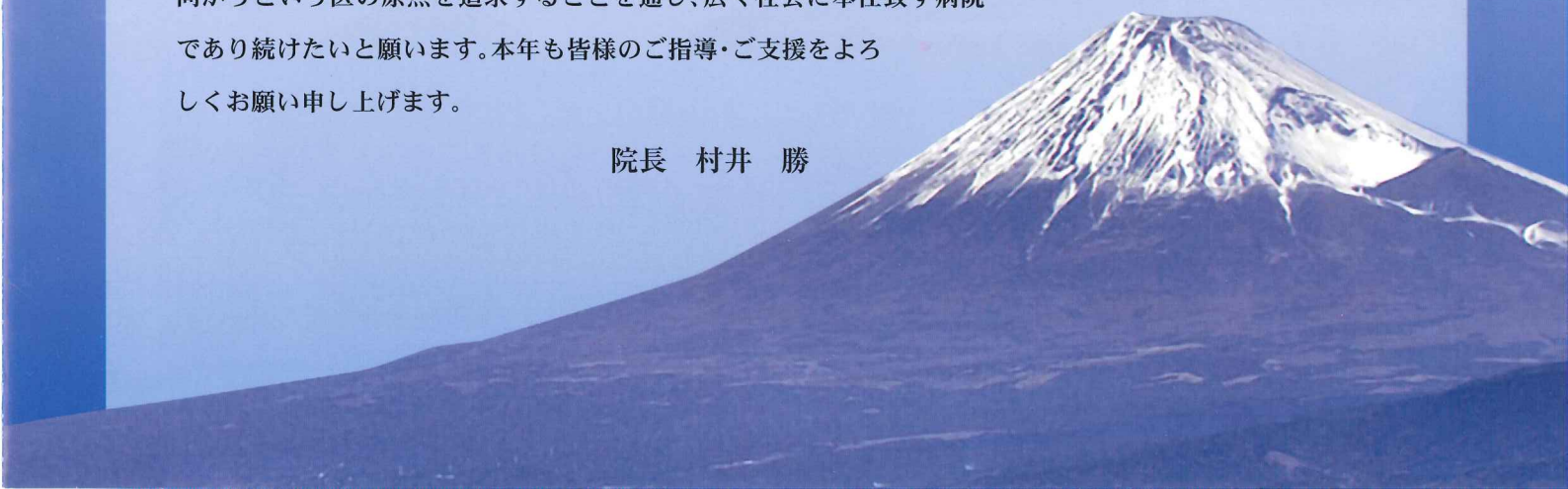
当院のルーツでありますThe Public Hospitalは1863年に横浜山手地区に開設されました。この病院はその後Yokohama General Hospitalと名称変更したが、わが国の近代医学の黎明期における指導的な病院であったと伝えられています。その後、第2次世界大戦末の敵性資産としての接収、横浜一般病院の設立、さらに名称変更をへて現在の国際親善総合病院は平成2年5月当地西が岡に移転開院しております。当院にとりまして本年は一つの節目ともいえます。

開院当初より急性期病院として初期医療機関との密接な連携の下に患者さんの診療にあたり、地域医療に貢献することを大切な目的として今日まで参りました。この初期医療機関との密接な連携は、お互いの強い信頼関係のもとに成り立ち、また、そこで行われる医療が質の高いものであることが基本となると考えています。本年も、院内各診療科がそのような目標に向かって日々努力を重ねていきたいと思ひます。

昨年5月より数年来の懸案でありました電子カルテを導入し、同時に院外処方にも移行しました。数年来徐々に進めております病院再整備の中でハード面の改築は診療を継続しつつの工事となるため当初計画の再検討を余儀なくされております。しかしながらソフト面すなわち地域に根付いた病院としての機能維持発展には不断の努力を続けておるところです。電子カルテは医療連携の強力なツールで、将来は連携医療機関との診療情報の共有も可能になってまいります。地域の医療機関の先生方との連携を通して良質な医療、親切的な医療、さらには信頼される医療の実施を推進したいと思ひます。幸い昨年10月より病院経験豊かな中川秀夫管理部長を迎えて職員一同張り切っております。

私たちの病院は先に述べた歴史を踏まえて、今後不幸にして病を得た方々の立場に立ち、ともに病に立ち向かうという医の原点を追求することを通じ、広く社会に奉仕致す病院であり続けたいと願ひます。本年も皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

院長 村井 勝



「緑内障に対する新しい点眼療法について」



緑内障とは正常視機能を維持できる健常眼圧異常の眼圧上昇の為に、視機能障害を来す疾患です。

厚生労働省研究班の調査によると、我が国における失明原因の第1位を占めており、日本緑内障学会の大規模調査によると、40歳以上の日本人における緑内障の有病率は5%である事がわかりました。

緑内障治療として唯一エビデンスが得られている治療は眼圧下降とされています。通常、点眼による薬物治療を単剤から開始しますが、効果が不十分である場合は、多剤併用療法が必要となり、点眼回数、種類が増える事により副作用の増加、アドヒアランスの低下が生じ、単剤にてより治療効果、安全性の高い点眼薬の開発が望まれています。

今回、当院では緑内障点眼薬を2剤併用から配合薬1剤に変更し、眼圧下降効果、眼表面への影響、使用感等に関するアンケート調査を行い検討致しました。その結果、配合点眼は、2剤併用時と同等に眼圧を維持可能であり、副作用発現率、医療費の軽減、アドヒアランスの向上につながることが期待され、その結果を日本臨床眼科学会にて報告し、多くの支持を得る事が出来ました。

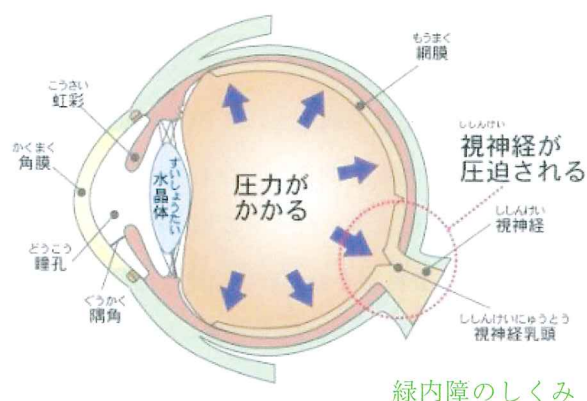
当院では緑内障の病型、進行度、全身状態、治療薬による副作用に注意しながら治療薬を選択し、点眼、内服にて十分効果が得られない場合はレーザー、手術治療を行っております。

また臨床研究、治験参加を積極的に行い、より良い治療を提供できるように心がけています。

緑内障は自覚症状が乏しく、治療期間が長期に及ぶ為、治療を自己中止される方もおり、治療継続の難しさも痛感しております。より良い視機能の維持を目指し、先生方のお力をお借りしながら啓蒙活動を進めていけたらと考えております。

今後とも努力を続けて参りますので宜しくお願い致します。

眼科部長 平井 香織



緑内障のしくみ

初期



中期



末期



緑内障 視野イメージ

第 11 回専門セミナーを開催して

平成 22 年 10 月 21 日

テーマ「呼吸器系のしくみを知り、吸引を安全に行おう！」

私は 2010 年に、集中ケア認定看護師の資格を取得しました。今回、私にとって初めての院外活動となった、第 11 回専門セミナーでは、吸引の手技について講義をさせて頂きました。

訪問看護師や介護福祉士、理学療法士の方に向けての講義という事で、職種が様々で、その一人一人のニーズに応えるということはとても難しかったです。しかし、アンケート結果では、「介護士の目線で分かり易かった」「陰圧をかけながら吸引するという事を知り、新しい学びになった」という意見を頂く事ができました。また、在宅や老人保健施設と急性期病院との違いで、使用する物品の違いに驚き、普段行っている手技の再確認や新たな情報を収集する場にもなりました。

集中ケアというと、重症患者や集中治療室での看護と考えられがちですが、私は集中ケアは【何でも屋】と思っています。呼吸、循環、消化器、脳神経系の急性期からの早期の看護介入についての実践、教育、相談を行い、うまく痰がとれない人のケア、ドレーンの管理方法、栄養投与方法や内容、口腔ケア、せん妄についてなど、普段みなさんが行っていることを一緒に考えて、よりよい方法を実践し、患者さんに回復して頂くことが目標です。そのため、病棟への患者さんの訪問を欠かさず行い、患者さんや病棟スタッフと関わりが持てるように、日々頑張っていきたいと思います。

集中ケア認定看護師 佐々木 亜理沙



「しんぜん院外健康教室」について



中川地区センター

先般より、当院の近くにある横浜市中川地区センター（泉区桂坂 4-1）の有山朋子センター長より「地域住民のみなさまを対象とした健康に関する講演をこのセンター内で開催してほしい」とのご要望を受け、「しんぜん院外健康教室」と称し、横浜市中川地区

センター・国際親善総合病院の共催にて年 2 回、当院の医師が講師となり開催させていただいております。

平成 22 年 7 月に第 1 回（テーマ：前立腺癌について 講師：泌尿器科部長 村井哲夫）の開催以来、平成 23 年 11 月に第 4 回（テーマ：脳卒中の予防・治療 講師：副院長 脳神経外科部長 飯田秀夫）を迎え、毎回 100 名を超えるみなさまにご参加いただいております。

今後も地域のみなさまの疾患予防と健康増進のために継続して開催出来るよう運営に努めて参りたいと思います。



副院長 飯田 秀夫

Information

院内学術講演会のお知らせ

開催日時 平成 24 年 2 月 9 日（木）19:00～

開催場所 国際親善総合病院 2 階講堂

講演 「糖尿病と心血管疾患との関係」

循環器内科医長 岩澤 祐二

「良性脳腫瘍の一般症状と治療・経過について」

脳神経外科医長 谷崎 義徳

※多数ご参加お待ちしております

連携医療機関紹介⑤

緑園都市眼科 後藤クリニック

神奈川県横浜市泉区緑園4-1-2 緑園都市ビル2F

今回、訪問させていただいたクリニックは、相鉄いずみ野線 緑園都市駅前のロータリーを挟んだビルの2階にありました。インタビューは12月の早朝でしたが、静かな雰囲気と清潔感のある街並みにあいまって後藤先生とスタッフの皆様の笑顔が心に残るひと時でした。

Interviews

・緑園都市眼科後藤クリニックをご開業されたのはいつからですか？

開業は平成元年で、もう20年以上前になります。開業当初は、本当に何もない所だと思いました。この辺りは「タヌキが出る」と言われていました。

・どのような疾患の患者さんが多く来院されますか？

高齢の方はやはり緑内障や白内障が多いですね。ただ昔は、緑内障と言うと眼圧が高くてという方が殆どだったのですが、今は眼圧が正常で緑内障という方も増えています。最近では健診センターでも注目するようになっていて、比較的若い方でも健診でよく緑内障疑いと診断されて来院される方も増えたという感じはあります。10代以下の若い方の殆どは、結膜炎などの外眼部疾患か、視力低下で来院されています。視力低下の大部分の原因は近視なのですが、環境のせいか、以前より近視になる年齢が早くなっている様です。



後藤 深雪 院長先生

・検査をして診察になることが多いと思うのですが、その点でなにか工夫をされていることはありますか？

そうですね、順番より早くいらっしゃった方には、最初に問診票をみて必要な検査をオーダーして、検査を受けていただき順番まで一旦ご帰宅いただいたり、瞳孔を開いたりする場合にも診察が後になるので、その場合も診察の順番を自動ガイダンスで確認していただき、再度電車や徒歩にてご来院いただくようお願いをしております。

・診療で大事にされている事は？

私自身に子供が出来て、患者として病院へ行くようになり、ものの見方が変わった気がします。やはり患者になると分かりやすく説明して欲しいし、色々不安なことがあります。だから「私だったらどうして欲しいかな？」と考えるようになりました。あとは、プライマリーとして本当に重要な疾患を見逃さない、経過をきちんと診るということを常に気をつけて診療しています。ただ、お子さんに泣かれてしまうと診察ができなくなってしまうので、可愛いペンライトを使ってみたり、いろいろな物を用意して泣かない状態で診させてほしいと思っています。

・当院への要望がありましたらお聞かせ下さい

すぐ近くに頼りになる病院があるということはすごく安心です。やはり個人病院では出来ないこともたくさんありますし、深刻な病気の時は、間違いのないと思ってセカンドオピニオンとして大きな病院を紹介して、やはり同じことを言われましたと納得して戻ってきて下さるので、そばに機関病院があるということは大変重要です。



後藤先生貴重なお時間をありがとうございました。



International Goodwill Hospital

お問い合わせは地域医療連携室までお願いします。
また、ご意見やご要望がありましたらご連絡頂ければ幸いです。

TEL 045-813-0221 (代) 内線 2600
FAX 045-813-7448 (地域医療連携室)